

北と南の海に高速旅客船を追う

下北半島と大村湾

事務局長 池田良穂

日本の旅客船(1)高速旅客船の編集作業も最終盤に入り、ゴールデンウィーク明けに5隻以上の船の写真が欠損している下北半島と大村湾への写真撮影旅行に行ってきました。遠距離なので飛行機代が結構かかるので、シニア用のスタンバイチケットにすることとし、天気がよい日の朝にそれぞれ決行を決めました。正規運賃のほぼ半額です。

下北半島航路の調査では、青森空港まで飛び、レンタカーでまわることにしました。津軽半島側の蟹田港からフェリーで下北半島の脇野沢港に渡り、半島の西岸の港を廻って船を撮影する予定でしたが、天気は快晴だったのですが風が強くなりフェリーは欠航。蟹田港で停泊するフェリー「かもしか」の姿を撮影した後、陸奥湾岸を廻って脇野沢港へ向かうことになりました。4時間近くかかり、青森市からのシライインの高速船「ポーラースター」の役割の大きさが実感することができました。シライインは青森港から脇野沢まで1時間弱の航海で、その後、下北半島西岸の港に寄りながら佐井港までいきます。また佐井、牛滝、脇野沢の各港からは、景勝地である仏ヶ浦までの観光航路にたくさんの高速旅客船が運航されており、彼女たちの姿を撮影するのも今回の主目的です。高速で航行する姿を撮影すべく場所と時間を決めていましたが、滞在した2日間共にいずれの観光航路も強風のため欠航で、港の中で停泊中の姿を撮影することになりました。

長崎の周辺の高速旅客船では、長崎空港アクセス船を運航する安田産業汽船の船の写真が決定的に不足していました。港町長崎にはよく出かけていますが、市内にはバスまたはレンタカーで移動しており、大村湾上をつなぐ空港アクセス船には乗ったことがありませんでした。そこで今回は長崎空港の旅客船ターミナルに留まって、朝から夕方まで写真撮影をすることにしました。シニア割引は当日にならないと予約ができないので、当日の朝にインターネットで大阪空港発の始発便と、長崎発の最終便を予約しました。この日帰り旅行で5時間くらいの撮影時間がとれ、途中で時津港への船で往復すると時津港に停泊している船の撮影もできそうです。長崎空港の客船ターミナルから時津まで25分の航海で、ハウステンボスへは50分の航海です。安田産業汽船の高速船リストでは10隻以上がリストアップされていますが、大村湾内のチャーターやボースレースアクセス、そして博多湾内の航路にも就航しているので、全船を撮影することはできませんでしたが、残るは2隻だけとなりました。

下北半島



蟹田港に停泊する陸奥湾口横断航路のフェリー「かもしか」の姿です。下北汽船の運航です。



佐井港に係船される「ニューしもきたⅠ」「同Ⅱ」。名勝仏ヶ浦への航路に就航しています。



脇野沢港での「ポーラースター」。青森港と下北半島の各集落を結ぶ高速旅客船。3 日目に風も少しおさまり、脇野沢と青森間のみ運航が再開されました。



新鋭観光船「ニューしもきたⅤ」です。

大村湾



「エアポートライナー8」。長崎空港と時津港を 25 分で結びます。



「オーシャンライナー」。当日は長崎空港とハウステンボスを結ぶ航路に就航していました。



長崎空港のターミナルを出港する「オーシャンライナー」と「エアポートライナー8」の姿です。



長崎空港のアクセス船棧橋。背景に滑走路が見えます。



「オーシャンライナー8」の下船風景です。トランク類は船員さんが荷揚げして棧橋に並べていました。



全速力で長崎空港の客船ターミナルに近づく「エアポートライナー18」の姿です。



ちょうど昼に、4隻の高速旅客船が長崎空港の棧橋に停泊しました。定期便だけでなくチャーター便もあるようです。



時津港に係船中の「たいよう」。106総トン、24ノットと安田産業汽船のフリートの中では最も大型の高速旅客船です。



時津港内で係船されていた「プロバー」(手前の小型船)と「プロバーV」です。